

気象変動に負けないコシヒカリを作ろう!! ～「R7 JAなのはな米品質向上運動」実施中～

- 高温登熟を回避するため、「コシヒカリ」の田植えは、5月15日を中心に行いましょう。
- 4月下旬以降は、気温の高い日が多くなります。育苗ハウスは換気を徹底し、がっちり苗に仕上げましょう。
- 基肥は、土壌条件に応じた施肥量となるよう調整し、必ず落下量を確認して施用しましょう。
- 近年は、気温の上昇に伴い雑草の発生が早くなっています。除草剤は遅れず適期に散布しましょう。

1 硬化期の育苗管理

- ・日中の育苗ハウス内の温度が25℃以下になるよう、換気を徹底しましょう。
- ・かん水は、床土の乾きに応じて、的確に行いましょう。（育苗培土の種類により乾き具合が異なるので注意！）
- ・田植えの7～10日前からは夜間もハウスを開け、外気にならしめましょう。

【育苗期間中の温度管理の目安】

ステージ	出芽期	緑化期	硬化期
育苗日数	3日	2～3日	13～15日
温度	昼	30℃	25℃以下
	夜	30℃	10℃以上

健苗育成及び病害リスクの低減のため、換気により温度管理を徹底しましょう

天気予報が晴れなら
早朝から換気！



2 本田準備

- ・田面に高低差があると、①田植機の植付精度が低下する、②除草剤の効果が劣る、③水管理がスムーズに行えない、等の問題が生じます。耕起・代かきは丁寧に行い、ほ場の均平に努めましょう。
- ・耕起は過湿状態で行うとトラクタが沈み、耕深が均一になりにくいため、できるだけほ場が乾いた状態で行いましょう。
- ・ヒエ等の雑草の発生を抑えるため、代かきは田植予定日の3～5日前に実施しましょう。
- ・代かきは少なめの水で行い、稲わら等の埋没に努めましょう。また代かき後の濁り水は、用水に流さないようにしましょう。

3 基肥量の調整

★田植前に必ず基肥量を調整しましょう。

- ・品種やほ場条件に応じた基肥量になるよう適切な施肥設計を行いましょう。
- ・田植作業前には必ず田植機の点検・清掃や調節を行いましょう。特に、前年、基肥一発肥料が余った（注文数量より使用量が少ない）場合は、田植機の施肥部分の開度を調整し、基準量が確実に施用されるように清掃・調節しましょう。
- ・田植作業の最初の田では、肥料使用量と田面積から施用量を算出し、基準どおりの施用量を確認しましょう。

【基肥設計例（品種:コシヒカリ、10a当たり）】

土質	肥効調節型基肥	分施					
	側条施肥	側条施肥		全層施肥			
	基肥一発肥料	設計 I	設計 II	設計 I		設計 II	
		なのはな有機基肥	基肥555	なのはな有機基肥	基肥555	基肥	早期追肥
				基肥	早期追肥 (田植後7日)	基肥	早期追肥 (田植後7日)
砂質田	Jコートコシヒカリ1号 40kg	35kg	30kg	30kg	10kg	25kg	10kg
壤質田	Jコートコシヒカリ2号 35kg	30kg	25kg	25kg	10kg	20kg	10kg
粘質田	Jコートコシヒカリ2号 30kg	25kg	20kg	20kg	10kg	15kg	10kg

※土壌改良資材を必ず施用しましょう。大豆跡田は、基肥量を5～7割減らす、または倒伏に強い品種の作付けに努めましょう。

4 苗箱施薬による病虫害防除

★苗箱施薬は規定量を確認に入れましょう。

使用農薬	散布量	施薬時期	対象病虫害	使用回数
ブーンレパード箱粒剤	50g/箱	播種時（覆土前）～移植当日	いもち病、紋枯病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、コブノメイガ、イネツトムシ（白葉枯病 ※移植当日のみ）	1回
スタウトアレス モンガレス粒剤	50g/箱	播種時（覆土前）～移植当日	いもち病、白葉枯病、紋枯病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、イネツトムシ	1回

- ・水稻育苗後にハウス内で野菜等の栽培を行う場合、苗箱施薬剤は必ず育苗ハウスの外で散布してください（ポジティブリスト対応）。
- ・高密度に播種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて薬剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50～100gまでの範囲で調整してください（施薬時期:播種時(覆土前)～移植当日）。

★春の農作業安全確認運動実施中（3／1 ～ 5／31） 農作業事故ゼロを目指して、事故防止対策を徹底しましょう！

裏面へ続く

5 田植えと水管理

- ・コシヒカリの田植えは、5月15日を中心としましょう。
- ・栽植密度は70株/坪・植付本数は3～4本/株、植付深さは3cm程度の浅植えを励行しましょう。
- ・栽植密度をしっかりと確保することにより穂数の確保につながり、昨年のような高温年でも安定して品質と収量が確保できます。
- ・田植え直後は、水深5cm程度のやや深水とし、苗を保護しましょう。
- ・活着後は、水深2～3cm程度の浅水とし、早朝入水・昼間止水で田水温が高くなるように努め、初期分げつの発生を促しましょう。

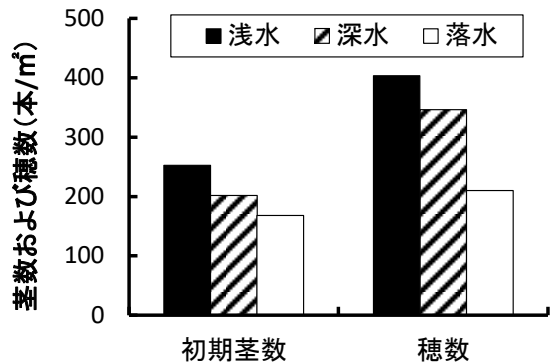
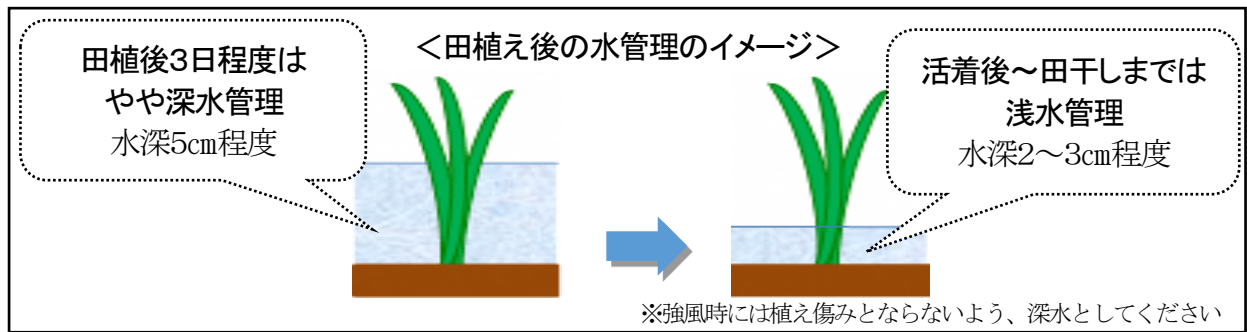


図 初期の水管理が初期茎数および穂数に及ぼす影響
(H24 農研) 注) 初期茎数：移植後20日目の茎数

6 除草剤の散布

- ・除草剤の散布は遅れずに、適期に行いましょう。また、強風時の散布は避けましょう。

■ 雑草防除体系 ～ 農薬は使用基準を守り、正しく使いましょう！ ～

区分	代かき	田植え	5日	10日	15日	20日	25日	30日
体系処理	粒剤	田植時～ノビエ1.0葉期(田植後5日頃) メテオ1キロ粒剤 クラール1キロ粒剤	田植後3日～ノビエ1.0葉期(田植後5日頃) マーシェット1キロ粒剤			田植後15日～ノビエ3.0葉期(田植後25日頃) サンパンチ1キロ粒剤 ウィードコア1キロ粒剤 但し、収穫60日前まで	田植後14日(稲4葉期以降)～ノビエ3.5葉期(田植後30日頃) グラシクロSジャンボ 但し、収穫60日前まで	
		田植直後～ノビエ1.0葉期(田植後5日頃) メテオジャンボ				田植後14日(稲5葉期以降)～ノビエ3.5葉期(田植後30日頃) ツイゲキ豆つぶ250 但し、収穫60日前まで		
一般的な使用例	粒剤	田植時～ノビエ2.5葉期(田植後13日頃) ベッカク1キロ粒剤 デオレ1キロ粒剤	田植時～ノビエ3.0葉期(田植後15日頃) ジャンダルムMX1キロ粒剤 クサウェポン1キロ粒剤	田植時～ノビエ3.5葉期(田植後17日頃) ゼータプラス1キロ粒剤				
		田植後3日～ノビエ2.5葉期(田植後13日頃) ベッカクジャンボ ベッカク豆つぶ250						
一発処理	ジャンボ剤他	田植後1日～ノビエ2.5葉期(田植後13日頃) クサウェポンジャンボ	田植後3日～ノビエ3.0葉期(田植後15日頃) ジャンダルムMXジャンボ	田植後3日～ノビエ3.5葉期(田植後17日頃) ゼータプラスジャンボ				

<除草剤の効果を高める7つのポイント>

- ①代かきは丁寧に行い、ほ場の均平に努める。
- ②代かきから田植えまでの期間を長くしない。
- ③代かき後に気温が高いと、雑草の発生・生育が早まるので、遅れずに散布する。
- ④湛水状態で散布する場合は、水の出入りを止め、5cm程度の湛水深を保ち散布する。
- ⑤除草剤の散布後は、5日間程度湛水状態を保つ(水漏れ防止のため、しっかり「畦塗」をする)
- ⑥散布後7日間は「落水」や「かけ流し」をしない「止水管理」とし、水田外への流亡を防ぐ。
- ⑦田植同時散布機(こまきちゃん等)を使用する場合は、薬剤によって粒径や比重が異なるので、散布量の調整を必ず行い、適量を散布する。

★なのはな農協では、皆様に電子メールによる営農情報の提供を行っています★

<情報提供内容>

- ・栽培管理情報
- ・緊急的な気象情報や災害防止対策
- ・緊急的な栽培管理情報
- ・その他必要と思われる情報

営農情報提供サービスの登録はこちらから
スマホ等で右のコードを読み込み、
必要な情報を登録してください

http://argo-navi.net/ja/mb_login.php



※農耕車等で道路を走行後、
泥落ちした場合は、泥の
撤去をお願いいたします。